

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH227
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 6
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	小黑 正幸
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>臨床現場において、下記 ~ を主とする各部の疾患・外傷に遭遇した際に、的確に対応するための判断能力、整復、固定などの臨床的知識、および予後を良好にするための処置や判断ができる能力の獲得を目的とします。</p> <p>頭部・顔面部の損傷および顎関節脱臼 頸部の損傷および頸椎の骨折・脱臼 肋骨骨折・胸骨骨折 胸腰部の損傷および椎体の骨折・脱臼 骨盤部の損傷および骨盤骨骨折 股関節脱臼 大腿部の損傷および頸部骨折・骨幹部骨折など。</p> <p>また頭部、脊椎の損傷は、危険症、あるいは禁忌症として慎重に扱うべき重大な損傷であることを認識し、柔道整復師として施術可能な範囲の修得、鑑別すべき疾患を学びます。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	整形外科、接骨院における10年以上の臨床経験に基づき、各項目に対し、実際の症例を用いて具体的な説明をするとともに、実体験のエピソードを交えて記憶への定着を図ります。
到達目標	<p>頭部、顔面、胸部、脊椎、骨盤部および大腿部の各疾患・外傷の診断法、応急処置、治療法、後療法、合併症、施術範囲に関する知識を適切に活用できることを目標とします。</p> <p>知識をもとにした論理的思考能力により、患者の状態を的確に判断し、施術範囲を守り、適切な治療を行うことができる知識の修得を目標とします。</p> <p>また、同範囲の疾患と外傷における国家試験水準の知識を習得するとともに、臨床への応用力を両立することができる能力の獲得を目標とします。</p> <p>また、古来より現代まで柔道整復医療に脈々として生きている伝承的（経験的）医療を学ぶとともに、最新知識、最新医学までの多角的な知識を修得することを目標とします。</p>
計画・内容	<p>1) 頭部・顔面の損傷（頭蓋骨骨折） 予習：頭蓋骨骨折の特徴について 復習：頭蓋骨骨折の特徴について</p> <p>2) 頭部・顔面の損傷 （眼窩底破裂骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折、鼻骨骨折、下顎骨骨折） 予習：眼窩底破裂、上顎骨、頬骨、鼻骨、下顎骨の各骨折の特徴について 復習：眼窩底破裂、上顎骨、頬骨、鼻骨、下顎骨の各骨折の特徴について</p> <p>3) 脊椎の骨折 頸椎骨折 予習：頸部の解剖と外傷について 復習：頸椎骨折の症状について</p> <p>4) 脊椎の骨折 胸椎骨折・腰椎骨折 予習：胸腰椎の骨折について 復習：胸腰椎の骨折の症状について</p> <p>5) 胸部の骨折 肋骨骨折および合併症 予習：肋骨骨折、合併症について 復習：肋骨骨折、合併症について</p> <p>6) 胸部の骨折 肋軟骨骨折、胸骨骨折 予習：肋軟骨骨折、胸骨骨折の症状について 復習：胸部の骨折のまとめ</p> <p>7) 骨盤骨骨折 胸腰椎骨折・脱臼・腰背部の確認テスト 予習：骨盤骨の解剖と外傷について 復習：骨盤骨骨折の特徴について</p> <p>8) 大腿骨骨折 予習：大腿骨の解剖と外傷について 復習：大腿骨近位部骨折の特徴について</p> <p>9) 大腿骨近位部骨折</p>

計画・内容	<p>予習：大腿骨近位部骨折の特徴について 復習：大腿骨近位部骨折の処置について</p> <p>10) 大腿骨骨幹部骨折 予習：大腿骨骨幹部骨折の特徴について 復習：大腿骨骨幹部骨折の処置について</p> <p>11) 顎関節脱臼・脊椎の脱臼 頭蓋骨・顔面骨骨折の確認テスト 予習：顎関節と脊椎の脱臼について 復習：顎関節脱臼の特徴、分類、症状について 復習：頸椎・胸椎の脱臼について</p> <p>12) 股関節脱臼 大腿骨近位部骨折の確認テスト、 予習：股関節の解剖と外傷について 復習：股関節脱臼の症状について</p> <p>13) 頭部・体幹部の軟部組織損傷 予習：顎関節捻挫、頭部・顔面部の軟部組織損傷、顎関節症の特徴について 復習：頭部・体幹部の軟部組織損傷についてのまとめ</p> <p>14) 股関節部・大腿部の軟部組織損傷 予習：股関節部・大腿部の損傷について 復習：股関節部の損傷まとめ</p> <p>15) 大腿部の損傷と疾患 予習：大腿部の損傷と疾患について 復習：大腿部の損傷総まとめ</p>
授業の進め方	<p>講義は指定教科書を中心に解説し、疾患・外傷を理解するための解剖学的知識を補足しながら進めます。スライドやプリントなどを活用し、書くことだけにとらわれず、「聞く」「考える」の時間を確保します。各項目の講義後に指定した範囲から10～20問程度の確認テストを実施し、国家試験対策とともに理解度の確認をします。確認テストは解説を行います。出席は必ず確認します。</p> <p>オンライン学習においては、事前に資料を掲示し、オンライン講義後にレポート提出をすることを基本として進めていきます。課題学習を併用します。 双方向性の担保として、レポートの総評と解説、質疑応答集を事後に掲示します。 オンライン学習における出席は提出物および、資料のダウンロード状況、オンライン授業の出席を総合して判断します。</p>
能動的な学びの実施	<p>一方的な確認テストをするだけでなく、教授した分野の実際の症例について提示し、学生自身が研究論文や、書籍を調べ、対処を考えていくといった自発的な学習も取り入れて学んでいきます。</p> <p>オンライン学習の際には、必要に応じて配布する評価基準に示すように、能動的かつ自発的な学習を推薦し、評価します。</p>
授業時間外の学修	<p>予習、復習は、各回に明示してあるテーマに従う。(合計60時間程度)</p> <p>オンライン学習においては、オンライン講義後のレポート提出、誤答・質疑応答集の参照、項目ごとの確認小テストの予習復習を強く推薦する。</p>
教科書・参考書	<p>「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」南江堂</p>
成績評価方法と基準	<p>定期試験の成績（90％）、単元ごとの確認テスト（10％）にて評価する。 定期試験に関しては、教授した範囲に関する客観式試験（難易度および出題形式は柔道整復師国家試験に準ずる）とする。</p> <p>ただし、オンライン学習においては、オンライン講義のレポート評価 出席点を含む（50％）、確認小テスト（20％）、定期テスト（30％）とするが、定期テストの公正な実施が難しい場合には、オンライン講義のレポート評価を80％とする。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>確認小テストの答えは返却し、授業内で解説を行います。</p> <p>オンライン学習においては、オンラインテストとし、点数の明示と解説をオンライン講義内にて行う。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>柔道整復師国家試験資格取得に必須の科目。基礎整復学、 、 に関連する。</p> <p>必修科目であるため、必ず第1回目の授業から履修登録の上、出席のこと。</p>

留意事項	新型コロナウイルス等の感染症に伴う非対面講義および課題学習の影響、また教科書改変の影響などで、教授予定の範囲が終了できない場合は別に時間を設けて補うものとする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン学習においては、事前に資料を掲示し、オンライン講義後にレポート提出をすることを基本として進めていきます。課題学習を併用します。</p> <p>双方向性の担保として、レポートの総評と解説、質疑応答集を事後に掲示します。</p> <p>オンライン学習における出席は提出物および、資料のダウンロード状況、オンライン授業の出席を総合して判断します。</p> <p>オンライン学習においては、オンライン講義のレポート評価 出席点を含む（50%）、確認小テスト（20%）、定期テスト（30%）とするが、定期テストの公正な実施が難しい場合には、オンライン講義のレポート評価を80%とする。</p>